

皆様は博士号取得を検討した経験がおありでしょうか。博士後期課程進学といえまだまだ敷居が高いこともありますし、博士号取得に意欲があっても、修了者を採用する企業が少ないという現実から断念された方も多いのではないかと推察します。私はもともと大変不真面目な学生でしたので、何とか修士課程を修了し、逃げるように企業に就職しました。そんな私でしたが、その後企業に勤めながら、通常の(昼間の)学生として再入学して、土日や夜間を利用して大学院に通い、博士号を取得するに至りました。本稿ではその体験をもとに、私と同じように修士課程修了後に就職された技術者の方、もしくはこれから就職を予定されている学生の方に、就職後に博士号を取得するという選択肢があることをお伝えしたいと考えています。ご指導中の先生方や博士先輩方にはお恥ずかしい内容ですが、ご笑覧いただければ幸いです。

1. なぜ博士号取得なのか

就職してしまうと、いわゆる OJT (on the job training) が重要視され、基礎学問の教育は不要のように思いがちです。ただ、OJTはその会社特有の仕事の仕方を覚えるという側面が強いのと思います。個人の成長という観点では、OJTを続けることで良い〇〇社の社員になることはできますが、それだけで世界に通用する技術者になることは難しいでしょう。博士号取得によってそれが達成されるわけではありませんが、私は、博士号取得のプロセスは技術者としてのスキルを大きく成長させるものだと感じました。大学院教育は専門性を高めるだけなので、企業人には不必要であると考える人も多いと思います。しかし、博士号取得に必要なスキルは、専門知識ではなく考察力です。考察力(というよりは考察する癖)は知見のない課題に対する応用力を向上させるものですので、技術者にも必須のスキルであるといえます。私は入社面接の際には「考察力はある

ほうです」などと豪語していましたが、博士号取得の過程において、それがとんでもない間違いであることに気がつきました。このように、自分の能力がどの程度かということを測れるという点からも、博士号取得のプロセスは有意義であると思います。

2. 社会人であることのデメリットは

これは時間がないことに尽きます。ただ、一般的には休業日や10~20日程度の有給休暇がありますので、その時間を使って対応が可能です。また、業務内容の変化にも気をつけなければなりません。私は都内の企業から東京の大学院に通っていましたが、業務の都合で静岡の工場へ異動となりました。通学可能な範囲であったのは幸運でした。

3. 社会人であるメリットはあるのか

入学の条件さえ満たしてしまえば、社会人であることは多くのメリットをもたらします。まず、就職先を気にしなくて済むことです。博士号取得者の就職難が叫ばれる中、これは非常に大きなメリットです。「勉強すること」の大切さがわかるという点もあります。学ぶための時間があって、わからないことがあったら調べたり教えてもらったりすることができる、という環境は貴重です。学生時代には考えもしなかったことでしたが、このような意識が持てることで、勉学への意欲も(学生時代に比べれば)高くなり、効率のよい学習が可能です。また、企業に所属していることで、博士課程での学習内容のアウトプット(どのように業務に生かし、社会に還元していくか)をイメージしやすいことも、モチベーションの向上に繋がると思います。学んだことによって業務のパフォーマンスが向上すれば、給料になって戻ってくるのも社会人ならではの。

4. 入学時期と大学院の選択

それでは、ここからは博士号取得までの具体的なプロセスについてお話したいと思います。通常、大学院前期課程で取得した講義の単位は、後期課程に引き継ぐことができます。そのため、地理的な条

件が合うのであれば、できる限り自らの出身大学院に再入学するのがよいと思います。また入学に先立って、職場、大学院との条件確認が必要であることはいうまでもありません。私は入学に際して、職場の許可証明の提出を求められました。ゼミや学会発表といった行事のために、平日に有給休暇を取得しなければならないこともあり、その内諾をとっておくことも必要です。入学時期はできるだけ早いほうがよいと思います。土日、夜間のほとんどを研究活動に使用する必要がありますので、できれば独身の間に卒業できることが望ましいでしょう。

5. 入学前

大学院入学には、(1) 社会人向け大学院入学、(2) 一般の(昼間の)大学院入学、(3) 論文博士、(4) 業務として入学(共同研究や制度利用など)などの選択肢がありますが、(4)の利用には期待しないほうがよいと思います。希望した時期に要望が通るわけでもありませんし、上述したように、卒業までの期間、社内状況が同じである保証はありません。私の場合は(2)を選択しました。いずれの場合でも、卒業までに必要な時間を入学前に計算しておくとうよいと思います。通常、概算で週5日、40時間で3年かかりますので、社会人の場合、土日、平日夜間利用で30時間とすると、4年は確保しておいたほうがよいでしょう。私の場合は5年かかりました。このことは、あらかじめ担当教員と相談しておきます。

6. 単位取得

わずかではありますが、大学院卒業のためには講義やゼミに出席しなければなりません。それらのすべてに参加することは難しいので、私は担当教員に掛け合って、出席の一部を免除してもらいました。2年目の前期までで単位はとり終わりますが、手続きなどのために平日に大学へ行かないといけないこともありますので、有給休暇の残日数に注意が必要です。私は年平均8日ほど必要でした。

7. 研究活動

研究活動は普通の学生と変わりません。私の普段の業務は製品開発ですので、研究活動は非常に楽しいものでした。何かの利益にとらわれることなく、科学について議論したり考えたりする時間には、それだけでも大学院に入った価値を感じました。

8. 学位論文

入学さえしてしまえば、社会人だからといって博士号の取得が難しくなるわけではありません。その差がわからないほど、社会人でなくても博士号の取得は大変です。博士号取得のための最大のハードルは学位論文の作成ですが、私はかなり苦戦を強いられました。学位論文執筆だけで1年は確保したほうがよいと思います。ただ、苦勞した分、これは非常に貴重な訓練であったと思います。考えを書き出して突き詰めることで、自分の考察の弱点がわかりますし、その内容について(教授に罵倒されながら)深く議論したり、指導を受けられるという環境は、ほかにはありません。

9. 修了後

学位審査を通過すれば晴れて学位授与となります。会社で自慢できますし、名刺に「博士(○学)」と堂々と書くことができます。何より、成長した自分に気がつくのではないのでしょうか。

私は、技術者の博士号取得は、個人にとっても企業にとっても、また科学技術の進歩という観点では社会にとっても、有益なことだと感じました。私は、博士号をもつ技術者が一人でも増えることを願っておりますし、今後、各企業には社員の博士号取得を推奨するような方針を打ち出していただきたいと考える次第です。

(オリンパスバイオマテリアル(株)
高見公彰)